
魔法の鏡

悲劇のM

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法の鏡

【Zマーク】

Z2697F

【作者名】

悲劇のM

【あらすじ】

王子が妃に選んだ娘。白雪の如く白い肌に、美しい容姿。王女は自分への自信を失いかけますが、魔法の鏡は優しく彼女を包み込みます。

王宮の一室でした。

窓からは朝の陽射しが差し込み、薄いレースのカーテンが輝きます。床には走れば滑つて転びそうな大理石がはられ、ピカピカに光っていました。部屋の隅にある化粧台の棚には、透き通つた色をした様々な液体が入れられたビンが何本も置いてありました。

今しがた高級な羽毛のベッドから起きたその美しい女性は、寝起きにも関わらず眉根を吊りよせ、ひどく憤慨している様子でした。しかしどこか気品があり、一国の女王だと言わっても違和感はありません。事実、彼女はこの国の女王様なのでした。

彼女が怒っているのには原因があります。数週間ほど前、自分の息子である王子の婚約者を決めるため、町中から娘が集められて王宮の広間でダンスパーティーが開かれました。

息子の婚約者が決まるなら早いほうがいい。最高級の衣服を王子に召かし、自分も乗り気でダンスパーティーに出席したところ、輝くような町娘がいたのです。自分がこの世で一番美しいと思つていたにも関わらず、それを遙かに上回る、綺麗で若く美しい娘でした。自分より美しいこの娘だけは王子の婚約者にしてはいけない。そう思つていたのに、王子はその娘を見つけるなり求婚し、娘もそれを承諾したのです。

早急に結婚式が行われると、娘はお妃として王室の人間になりました。以来自分のことを慕つていた召使達も、皆娘にべつたりです。女王はすべてが憎たらしくなりました。あの娘さえいなければ自分がこの世で一番美しいのに。

彼女がこんなにまで自分の美しさに自信があるのには、理由がありました。彼女は、不思議な不思議な魔法の鏡をもつていたのです。それは何でも知つていてる鏡で、その鏡に何かを聞くと、何にでも答えてくれるのです。女王は常日頃から鏡に向かつて「鏡よ鏡、この

世界で一番美しいのはだ～れ？」と同じ文句を言い続けていました。若い男の声での「それは、女王様だ」の鏡の言葉が、女王を幸せにさせました。

しかし、今同じ質問をすると、いつも返ってくるでしょう。「それは、お妃様だ」。

それでも彼女は鏡の前に向かいました。そして言い慣れた文句を言います。

「鏡よ鏡、この世界で一番美しいのはだ～れ？」

いつもより小さい声で、悲哀が籠っているようでした。いつしか怒りは悲しみに変わり、目元には一筋の涙が光っています。鏡からは、予想外の返事が返ってきました。

「何で泣いてんだよ」

突然のことに驚く女王ですが、慌てて答えます。

「王子が選んだ娘が、私より美しくて……」

「だから何だつていうんだよ」

え？

女王がそれを言の葉に紡ぎだす前に、鏡は続けました。

「言つてるだろ、王子の嫁がどんだけ美しくても、俺の一一番はお前だよ」

「か、鏡……！」

女王は、しんしんと感涙に咽びました。やはり一番美しいのは自分。他の人がどう思つても鏡の言つことは全て正しいのです。再び自信を取り戻しました。

「な、何泣いてんだよ！　お前は、その……。笑つてるほうが可愛いつて、じ、自分で気付かねーだろ。笑顔作つて俺を見ろよ。可愛いお前が写つてるぜ」

(後書き)

「なんだじゃ 腐女子は釣れねえぞ～！ くらこでいいんで感想下さ
いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2697f/>

魔法の鏡

2010年10月28日08時38分発行